

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

目 次

本との出会い ----- 1	こころの手入れの上手い人、下手な人 ----- 5
はじめて買った本、借りた本 ----- 2	増えた雑誌タイトル ----- 6
図書館 = わくわく空間 そして	卒業生の皆さんへ ----- 7
本 = 絵本の読み聞かせ ----- 3	平成15年度三葛館活動記録 ----- 8
読書と看護 ----- 4	編集後記 ----- 8
患者さんの体験 ----- 4	

本との出会い

病態学 上 松 右 二

これまで本とはさまざまな出会いをした。

小学生の頃は、4歳年上の兄に薦められ、2年生の時から当時和歌山城内にあった和歌山県立児童図書館へ通った。数人の友と2、3冊の本を借りに毎週末出かけた。約40年経た今も、その趣きのあった建物やなつかしい友が脳裏に浮かんでくる。がしかし、読んだ本についてはあまり憶えていない。織田信長、太閤秀吉など日本の歴史物が多かったように思うが・・・これは、本を借りて読む以上に友と城の中で遊ぶのが楽しみであったのだろう。

中学生の頃は、必要にかられて読んだように思う。読書感想文の宿題のため、また、最も苦手科目であった国語の克服にと担任教師に朝日新聞の天声人語のまとめをするように言われ、学校の図書室へ通った。芥川龍之介、夏目漱石、小泉八雲など日本の代表的作家をよく読んだ。また、ヘルマン・ヘッセの「車輪の下」に出会い、深く感動したことを覚えている。

高校・大学時代は、他のことで忙しくて、あまり本を読む時間が無かった。大学卒業後も、専門の神経系領域の図書を読む以外には、それほど多くの本を読んでこなかった。

最近、自分にとって素直に読める、司馬遼太郎の紀行文「街道を行く」のシリーズ、五木寛之の日本の古寺・仏教を紹介した「百寺巡礼」、梅原猛の仏教本などを楽しんでいる。ただし、同じ著者だから

とって、すべて素直に読めるものとは限らず、たとえば、司馬遼太郎の「空海の風景」などは非常に難解である。このような難解な本も読み応えがあり、読む必要を感じる時があるが、やはり、読書というのは自分にとって無理なく引き込まれてついつい読んでしまうのが良いと思う。その本の中に、素晴らしい言葉を見つけたり、情景を浮かべることができたりすると幸せな気持ちになる。本との出会いの醍醐味である。この本の著者はどのような人物なのか、なぜこのような内容を書き記せるのかなど、いつの間にかいろいろと考えさせられる。

皆さんは、本とどんな出会いをしていますか。

はじめて買った本、借りた本

小児看護学 柳川敏彦

マンガの本以外で初めて自分で買った本は何であったか。確か小学4年生の時だと記憶しているが、それは「不思議の国のアリス」であった。ウサギを追いかけてアリスが穴に飛びこむと、奇妙で不思議な冒険が始まるという、ご存知の古典である。近所でも、親戚一同からも、わんぱくっ子、いたずらっ子と認められ、いわゆるやんちゃで通っていた私が、夏休みの読書感想文のために四苦八苦してなんとかたどり着いた本であった。嫌なもの、苦手なものに対する記憶はなぜか鮮明である。小学5年、6年生ごろからは、夏休み前に学校の図書館で本を借りるようになった。最初に借りた本は、これも有名な夏目漱石の「坊ちゃん」であったのではなからうか。

私の読書の始まりは、このように「読書感想文」という夏休みの宿題に端を発している。嫌いなものはできれば避けて通りたい。避けられないと分かると、何とか攻略する方法はないかと考える。中学生のある時、図書館で「読書感想文コンクール受賞作品」という本が目に入った。いくつかの入選作を読んで、「なるほどこういう内容のことを書いたらいいのか」と開眼した思いであった。「こんなよい手本があるのに、どうして学校の先生は教えてくれなかったのか」という思いも正直なところあった。果たして中学校3年生のとき、芥川龍之介の「羅生門」で読書感想文の校内代表となり、旺文社の全国コンクールに入選した。菊池寛の「父帰る」とどちらにしようかと悩んだことも思い出される。

私のこの経験は、いろんな形で今に結びついている。「嫌いなものへの強い気持ち」「何とか克服したいという気持ち」「何かをしようとするきっかけ」そして「自分のしたことを他人が認めてくれる」などのキーワードは、その後何度か出会った困難を打開する私の標語となった。

読書という内容から少し離れたので軌道修正するが、高校生以降は比較的本を読んだように思う。私の場合は、ある特定の作家にかたよる傾向があり、高校時代は五木寛之、大学時代は渡辺淳一、卒業後は阿刀田高、灰谷健次郎、河合隼雄と続いている。段々と自分の専門分野に近づいてきているような気がする。これからは、時間があれば是非「児童文学」に眼を向けたい。

これを書いているときにずっと頭に浮かんでいたのは、「あの頃読んだ本」であるとともに「あの頃よく聞いた歌」であった。いつの間にか懐かしい思いに浸っていた。本から自分の歩み、歌へのこの連想は、すでに読書が嫌いなものから、楽しいもの、すばらしいもの、自分から切り離せないものへと変容していることの証なのだろう。

図書館 = わくわく空間 そして 本 = 絵本の読み聞かせ

地域看護学 前 馬 理 恵

じっくり読んだ本の数は、ほんとうに少ないのですが、図書館でいろんな本をつまみ読みすることは多くあり、大好きです。小さい頃より、本屋さんに長居をしたり、小・中・高と学生の頃は図書委員になる機会が多くあり、本に囲まれて安心していました。いろんな世界がすぐ手の届くところにあり、可能性を秘めた未知の空間が広がっているという感じですね。その感覚は今も変わらず、図書館ではいつもわくわくし、時間があっという間に過ぎてしまいます。せっかく身近に「三葛館」がありながら、利用する時間をつくれずにいます。これからは、もっとわくわく空間に身を置きたいと思っています。

そして、読書のスタートは、やはり絵本でしょうか？ 読んでもらった記憶はあまりないのですが、二人の子どもにせがまれ、毎晩それぞれ選んだ二冊の本を布団の中で読むのが日課になっていた頃を懐かしく思い出します。「いないいないばあ」から始まり、「きんぎょがにげた」「ブルくん、ダンプくん」「101匹のねこ」「おいしいのぼうけん」「ダンプえんちょうやっつけた」などたくさん、たくさん、何回も・・・ 小学校になるまで、その習慣は続いたでしょうか。そのおかげかどうか、子どもたちは私に似ず、読書が好きなようです。読み聞かせは、本を通してのコミュニケーションの場であり、好奇心や想像力、集中力や持続力、さらに創造性を高めるチャンスです。読み手にとっても、書かれていることや伝えたいことが明確になり、聞き手（子どもたち）の反応に刺激を受け、楽しいものです。この読書の原点に立ち返り、ホッとする本にふれつつ、好奇心をかきたて（そろそろめがねをかけながら）、新たな本にチャレンジしていきたいと思います。



読書と看護

成人看護学 山中 順子

読書と看護、この2つは一見無関係のように思えるが、実はかなり深い結びつきがある。私たち看護者と患者さんとの橋渡しをしてくれる大切なコミュニケーション。このコミュニケーションの技術を磨くために必要なのが「読書」である。もちろんこれを磨くためには、実際に多くの人と接し、会話することは言うまでもないが、この時に読書力があるかないかで、その後の技術の向上に大きな違いが出る。普通の会話をしていてもそれは歴然である。銀座で有名なお店のホステスさんたちが、あらゆる新聞を隅から隅まで読み、お客さんとのコミュニケーションに役立てているという話は有名である。新聞を読むことと読書とは同じとはいえないが、新聞はその内容の豊富さから、本を読むことにさほど引けを取らない。

通常、人の話には幹と枝葉があると言われている。相手の話の要点、つまり幹をしっかりと押さえて、そこから会話の枝葉を伸ばしていく。これが会話というものであるが、この幹を押さえる力は、読書を通じて向上させることができるのである。また、枝葉を伸ばすときに、話題や語彙の豊富さで読書は大きく貢献する。誰しも経験があると思うが、自分の一生懸命話した内容が、きちんと相手に伝わっていると感じたとき、とても嬉しいものである。聞き手が、相槌を打つだけでなく、相手の話を自分の言葉にして口にすれば、理解したことが相手に伝わりやすくなり、会話がはずむ。この自分の言葉に言い換えるときに、いかに相手の話を的確にとらえているか、この要約力も読書は鍛えてくれる。このように、読書がコミュニケーション技術向上に関与しているところは非常に大きいのである。

最近の大学生のほとんどは読書の習慣がないという。かく言う私も、必要に迫られないと本を手にしなことが多くなってきている。しかし、1度しか聞けない講演や講義などと違って、1対1で、それも読者である自分のペースで理解することができ、多くの学びを得られ、なおかつ看護に必要なコミュニケーション技術を向上させてくれる「本」を読まない手はない。自分を広げ、向上させてくれる本に数多く出会うためにも、ぜひ読書を意識して行ってほしい。

患者さんの体験

地域看護学 平尾 恭子

『こころの医者フィールド・ノート』(ちくま文庫)、これは群馬県のある保健師とともに地域精神医療に先駆的に取り組まれた精神科医の中沢正夫先生が書かれたもので、私が就職して1年目に大先輩の保健師さんから薦められて読んだ本です。この本には、先生が村の家庭訪問や病院での診察で出会った精神障害をもつ人々とその家族の30余りの「生きざま」が、先生の目と心を通したあたたかい言葉

で綴られています。そして、この本の節々から、障害者や家族とともに喜び、悲しみ、怒り、闘ってきた一人の人間としての先生の姿勢を窺うことができます。精神障害をもつ方の家庭訪問を始めたばかりの私は、この本から大きな感銘を受けるとともに、精神障害による本人、家族の体験や、悲しく複雑な思いを知りました。人間の心のなかで起こっていることは理解しがたく精神障害をもつ人々や家族の体験を知ることは困難ですが、その一助としてこの本をお薦めしたいと思います。

さて、相手の立場に立って考えることは、人として、また社会生活を営む上で非常に大切なことですが、まだ生活体験や社会経験の乏しい学生の皆さんが、様々な疾患をもつ患者さんの立場に立って考えることは、本当はとても困難なことかもしれません。しかし、このことは、患者さんや家族がもっている体験や思いに近づける感性をもっているか、近づこうとする姿勢があるかによるのだと思います。教科書から保健や看護に関する多くの知識を得ることは大事ですが、患者さんや家族が書かれた手記や体験談は、教科書では得ることのできない貴重な学びを私たちに与え、私たちの感性を豊かにしてくれます。また、ときには私たち保健・看護職者に重要な課題を投げかけてくれます。日々の忙しさに流されがちな今の私への戒めでもありますが、感受性の強い学生の皆さんには特に、患者さんや家族の手記、体験談にふれ、個々の感性を磨いてほしいと思います。

『こころの手入れの上手い人 下手な人』 斎藤茂太著 青春出版社 2001

3年 梅室朝香

寒さ厳しい2月。国家試験を目前に控えて、図書館には熱心に勉強している人の姿が見られます。その後ろ姿に「あともう少しがんばって！ でもがんばりすぎて体こわさないように」とエールを送っています。

私は看護学校を卒業後、看護師として働いていたのですが、思うところがあって本学に編入学しました。入学してびっくりしたのは、編入生をはじめ、学生の皆さんがとても勉強熱心だということです。自分が看護学生の時、と考えるとあまり勉強した記憶がないので、将来の目標に向かって懸命に努力している皆さんには本当に頭が下がります。そんな皆さんに、今は必要ないかもしれませんが、これから先の人生でいつか役に立つのではと思う本を1冊紹介したいと思います。

看護学校を卒業後、看護師として忙しい中にもやりがいと充実感のある日々を過ごして、その忙しさに慣れてしまったためか、出産し育児をしても何だか自分がさぼっているような、同期の友人たちに置いて行かれたような不安な気持ちになった時期がありました。そんな気持ちの時に図書館で気分転換になる本を探していて、この本に出会いました。これを読んで、ふっと肩の力が抜け、悩むことも悪くないな、今のこの時間を大切にしようと思えるようになったのを覚えています。自分の目標に向かって日々努力している皆さんが全力疾走できなくなった時、そんな時この1冊があなたをホッと一息つかせてくれるといいなと思います。

2003年より下記の雑誌タイトルが増えました。ご利用ください。

American Journal of Critical Care	クリニカルリハビリテーション
American Journal of Health Education	コミュニティケア
American Journal of Hospice and Palliative Care	外来看護新時代
American Journal of Infection Control	発達
Applied Nursing Research	Health Sciences
British Journal of Community Health Nursing	週刊保健衛生ニュース
British Journal of Nursing	保健師・看護師の結核展望
Canadian Journal of Nursing Research	ホスピスケア
European Journal of Public Health	ICUとCCU
Evidence-Based Nursing	自立支援とりハビリテーション
Family & Community Health	助産師
Health & Social Care in the Community	介護福祉学
Issues in Mental Health Nursing	看護学生
Journal of Community Health	看護教育学研究
Journal of Community Nursing	環境感染
Journal of Community Practice	緩和医療学
Journal of Continuing Education in Nursing	家族看護学研究
Journal of Midwifery and Women's Health	家族療法研究
Journal for Nurses in Staff Development	健康づくり
Journal of Pediatric Oncology Nursing	健康管理
Journal of Professional Nursing	高齢者のケアと行動科学
Journal of Wound, Ostomy and Continence Nursing	救急医学
Neonatal Network	ナイチンゲール研究
Nurse Education Today	日経サイエンス
Nursing Administration Quarterly	日本母性看護学会誌
Nursing Economics	日本保健福祉学会誌
Nursing Ethics	日本褥創学会誌
Nursing & Health Sciences	日本助産学会誌
Nursing History Review	日本看護歴史学会誌
Nursing Science Quarterly	日本精神保健看護学会誌
Oncology Nursing Forum	日本社会精神医学会雑誌
Qualitative Health Research	日本新生児看護学会誌
Quality Management in Health Care	パワーリハビリテーション
Science	プライマリ・ケア
Seminars in Oncology Nursing	理学療法ジャーナル
Western Journal of Nursing Research	作業療法
母子保健情報	死の臨床
病院	総合リハビリテーション
地域ケアリング	健

卒業生のみなさんへ 三葛館の卒業後の利用について

卒業後もぜひ三葛館をご利用ください。利用方法が変わりますのでご注意ください。

来館時の注意

最初にカウンターで閲覧許可申請書に記入してください。バッジを渡しますので、確認できるように付けてください。帰る際、カウンターにお返しください。

図書館の休館日、開館時間にご注意ください。

図書館利用券

卒業後も貸出を希望する場合は、新たに利用券を発行します。利用期限は当該年度末までとなりますが、その後も更新の手続きをして利用することができます。

申込時や更新時には住所の確認ができる運転免許証などの証明書が必要となります。

貸出

貸出冊数は2冊になります。貸出期間は2週間です。最近、卒業生の延滞が増えてきております。他の方が利用できませんのでルールを守ってご利用ください。

製本雑誌の貸出、貸出更新はできなくなります。

文献複写サービス

三葛館にない文献のコピーを他大学図書館から取り寄せるサービスが受けられなくなります。所属する病院もしくは大学等の図書館(室)にお問い合わせください。病院に図書室がない場合

は、他の入手方法を紹介します。

文献検索

三葛館における文献検索は従来どおり利用いただけます。

ご自宅での検索は下記ホームページもご利用ください。

日本看護協会(会員のみ)

<http://www.nurse.or.jp/kaiin.html>

日本看護協会の正会員であれば、会員登録をすることにより、JMEDPlus(医学文献データベース)等の検索が可能です。

国立国会図書館雑誌記事索引

<http://opac.ndl.go.jp/Process>

看護学の周辺領域である地域保健、心理学、教育学等の分野を中心に、国立国会図書館が収集している学術雑誌の文献情報が検索できます。

レファレンス(各種相談)

臨床場面での問題解決やレポートの作成、看護研究のサポートをさせていただきます。

来館時だけでなく、電話による問い合わせも可能な限り対応いたします。

気軽にご連絡ください!

ご卒業おめでとうございます!



平成 15 年度（2003 年度）三葛館活動記録

- 4月7日 第1回図書館委員会
- 4月8日 新入生オリエンテーション
- 4月19日 日本看護図書館協会第13回総会（兵庫県立看護大学）
- 4月30日 第2回図書館委員会
- 6月4日 第3回図書館委員会
- 6月19日 第4回図書館委員会
- 7月2日 第5回図書館委員会
- 7月10日 株式会社リコー図書館システム説明会（南海サウスタワーホテル大阪）
- 7月11日 平成15年度公立短期大学図書館協議会中部・近畿地区協議会（本学）
- 7月16日 日本看護図書館協会第1回「看護と情報」編集委員会（大阪市立大学）
- 7月28日 平成15年度和歌山県保健師助産師看護師等実習指導者講習会（本学）
- 7月30日 平成15年度和歌山県保健師助産師看護師等実習指導者講習会（本学）
- 8月7日 第6回図書館委員会
- 8月11日 第1回図書館運営会議（和歌山県立医科大学附属図書館）
- 8月14～29日 書架増設工事
- 8月21～22日 平成15年度公立短期大学図書館協議会図書館職員研修会（メルパルク長野）
- 8月26日 日本看護図書館協会第2回「看護と情報」編集委員会（大阪市立大学）
- 8月28～29日 日本看護図書館協会第30回研究会（西南女学院大学）
- 9月3日 第2回図書館運営会議（和歌山県立医科大学附属図書館）
- 9月10日 第7回図書館委員会
- 10月25日 日本看護図書館協会第31回研究会（日本医科大学）
- 10月28日 平成15年度日本図書館協会短大・高専図書館部会ワークショップ（日本図書館協会：東京）
- 11月10日 第1回文献検索ガイダンス
- 11月17日 第2回文献検索ガイダンス
- 11月19日 第8回図書館委員会
- 11月26日 平成15年度公立短期大学図書館協議会総会（静岡県男女共同参画センター）
- 12月1日 第3回文献検索ガイダンス
- 12月11日 日本看護図書館協会第3回「看護と情報」編集委員会（大阪市立大学）
- 12月24日 第9回図書館委員会
- 1月16日 日本看護図書館協会第4回「看護と情報」編集委員会（大阪市立大学）
- 1月28日 第10回図書館委員会
- 2月5日 日本看護図書館協会第5回「看護と情報」編集委員会（大阪医科大学）
- 2月19日 日本看護図書館協会第6回「看護と情報」編集委員会（大阪医科大学）
- 2月27日 日本看護図書館協会第7回「看護と情報」編集委員会（大阪医科大学）
- 3月9日 日本看護図書館協会第8回「看護と情報」編集委員会（大阪医科大学）
- 3月12日 第11回図書館委員会
- 3月15日 日本看護図書館協会第9回「看護と情報」編集委員会（大阪医科大学）

編集後記

保健看護学部となり、図書館のみならず学部全体が以前にもましてバタバタした雰囲気を感じております。寄稿者の皆さまにはお忙しいところ執筆いただきありがとうございました。新しい年度には、「図書館報みかづら」も、ホームページ上で公開したいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(J.S.)

~~~~~

平成17年3月1日発行  
図書館報 みかづら（第8号）  
発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館  
〒641-0011 和歌山市三葛580番地  
TEL(073)447-2300(代表)  
(073)446-6721(三葛館)  
FAX(073)446-6730(三葛館)

~~~~~